

●本リリース(全2枚)は、大分県政記者クラブ・別府市政記者クラブ・福岡経済記者クラブ加盟各社に送信しています。

お知らせ

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学

2016年5月27日

APU リリース 2016-25

報道機関 各位

「字が読めなかったら、不便？」 教育の大切さを考える世界規模のイベントを開催

5月25日(水)、立命館アジア太平洋大学で、本学初開催となる「世界一大きな授業」が行われました。これは、2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の一つである、全ての人々に公平で質の高い教育の提供を達成するために、世界100カ国以上で行われているものです。本学では、学生団体Roots(ルーツ)が主催し、1,2回生を中心に約40名が参加しました。

代表の上小澤明花さん(カミコザワ ハルカ、アジア太平洋学部2回生)は、イベントを企画した理由として、「マララさんのノーベル賞受賞を知り、同世代の子が世界へ声を発信しているのに衝撃を受け、行動を起こしたいと思いました。自分たちで出来ることを考えるきっかけにしたい」と話しました。

イベントでは、参加者は2014年にノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんのビデオを見た後、世界には約6千万人の子供が小学校に通えず、8億人弱の大人が読み書きできない現状について学びました。そして、グループに分かれ、「今私達(学生)にできないこと」「大人たちにしてほしいこと」について議論、発表しました。発表では、「学生の自分たちにはお金や時間、知識等がない」、大人たちには「信頼できる大人であってほしい」「世界の現状を知る機会を提供してほしい」「教育の重要性を唱える教育をしてほしい」等、様々な声が上がりました。

その後、副代表の佐野香純さん(サノ カスミ、国際経営学部2回生)は、ベトナムの大学で日本語教師のインターンをした際に、教員の上司からファッションショー参加を頼まれ授業を休講にした結果、学生たちから授業を受けたかったと言われたことから、「(学校などの環境を整えることも大事だが、)教える教員自身の姿勢も大事だ」と感じ、数年後に大人になる自分たちになにができるかと参加者に投げかけました。最後に、上小澤さんは「知る→考える→行動する」のサイクルを意識することの大切さを話し、終了しました。

●本リリース(全2枚)は、大分県政記者クラブ・別府市政記者クラブ・福岡経済記者クラブ加盟各社に送信しています。



【代表の上小澤さん(左)と副代表の佐野さん】



【グループ内で議論し、意見を模造紙にまとめる】



【議論した内容をグループ単位で発表】

【本発表資料のお問い合わせ先】 学長室(広報)担当:加藤・宮腰
Tel:0977-78-1114 携帯:090-5473-3803 住所:〒874-8577 大分県別府市十文字原 1-1
公式ウェブサイト: <http://www.apu.ac.jp/home/> フェイスブック: <https://www.facebook.com/apunews/>